

保育所の保健活動に関する保護者の意識調査

— 保護者意見の分析 —

母子保健研究部 齋藤幸子・高野 陽
嘱託研究員 門脇睦美

要 約

保育所の保健活動に関する保護者の認識や意見を把握し、今後の保健活動の向上に資することを目的に、全国公私立 36 か所の保育所においてアンケート調査を行った。2,504 人の回答のうち自由記載があった 606 人の意見について、子どもの年齢別・保育所別に分析を行った。記述の内容は、要望 543 件、問題点の指摘 182 件、肯定的意見・感謝 169 件、否定的意見 23 件、その他 24 件、計 941 件であった。

最も多かった要望は病気の時の対応であり、病児保育・投薬・医療職の配置が望まれていた。

看護職が配置されている保育所では保護者の満足度が高く、看護職は乳児のみならず保育所全体の保健活動への関わりを期待されていた。また、保育所全体で子どもを見守る姿勢が保護者に安心感を与えていたことから、看護職のみならず保育士の保健活動が重要である。

感染予防・環境衛生管理は、理論と実践の差異の検証が必要であることが示唆され、看護職の配置がない施設でも管理が徹底されるよう、マニュアルの導入・医療との連携・行政指導が望まれる。

見出し語：保育所、保護者の意識、保健活動、感染症の予防

A Survey on Parents' Cognition of Health Care Activities in Day Care Center : An Analysis of Parents' Opinion

Sachiko SAITO, Mutsumi KADOWAKI, Akira TAKANO

Abstract:

The questionnaires were sent to 36 public and private day care centers throughout Japan. Replies were obtained from 2,504 parents and 606 of them answered the essay question. The contents of description were classified into 543 requests, 169 expressions of gratitude or affirmation, 23 negative opinion, and 182 questions, 24 generalities. And these were analyzed according to categories.

The most important point was care for sick children. When their children got sick, most of the parents wanted a medical facility to be provided with medical staff in another room in their regular day care centers. They thought that the medical staff should be assigned to each day care center. In the nurseries where nurses were assigned, parents were free from anxiety about their children's health. As a matter of course, nurses were expected to provide health care. However, the day care workers were also expected to deal in health care. This fact suggests that education or improvement about child health knowledge is important for all nursing members of day care centers.

Concerning day care center hygiene and prevention against infection, the states of situation were different among the day care centers, instruction of public health administration was required.

Key words: Day care center, Parents' cognition, Health care activity, Prevention against infection,

I. はじめに

少子時代における次世代育成のための施策の中で、保育所の役割はますます重要性を増している。保育所は、保育中の乳幼児の生活を保障することのみならず、家庭の育児を支援する立場で、乳幼児の生活全般に目を向けた支援が期待されている。

また、平成 12 年度から平成 13 年度の保育所の保健活動に関する実態調査^{1) 2)}で明らかにされたように、保育所では低出生体重児や虐待児の入所が決して珍しいことではなくなっている現状があり、乳幼児の健康支援・保健活動の充実は緊急課題であるといえる。そのためには、保護者との連携が欠かせないことは保育所保育指針³⁾に記載されている通りである。

そこで、保護者のもつ保育所保健に関する認識をより詳細に知るため、昨年度報告した保育所の保健活動についての保護者の意識調査⁴⁾から、自由記載意見を子どもの年齢別、保育所別に分析した。選択肢式のアンケートの回答からは得られない、保護者の個別の事情や保育所個別の特徴を明らかにし、保育所を中心とした育児支援策の質の向上に寄与する具体的資料を提供したい。

II. 研究方法と対象

青森県、秋田県、宮城県、東京都、福井県、神奈川県、大阪府、香川県、沖縄県の公立及び私立認可保育所それぞれ 18 カ所計 36 カ所を介して、保護者に「子どもの健康に関するアンケート」調査票を配布し回答を求めた²⁾。今回はこのうち、保育所の健康管理全般についての自由記載意見について、その内容を検討した。調査時期は 2001 年 11 月であった。

III. 結 果

1. 対象について

回答者 2,504 人中、自由記載に回答したものは 606 人 24.2%であった。その内訳は公立保育所が 945 人中 248 人 (26.2%)、私立保育所が 1,544 人中 354 人 (22.9%)、所属不明 15 人中 4 人 (26.7%) である。設置主体および看護職の配置有無別の記載率を表 1 に示した。公立看護職の配置あり、公立看護職の配置なし、私立看護職の配置あり、私立看護職の配置なし、の順に自由記載率は高かった。子どもの年齢別では、表 2 に示すように 0 歳児の保護者の記載率がやや高いが、各年齢にわたって意見が出されていた。

保育所別に記載率をみると、10%未満が 2 か所、10%台が 11 か所、20%台が 12 か所、30%台が 8 か所、40%

以上が 3 か所であった。最小値 12.7%、最大値 50.0%とやや幅があった。

表 1. 設置主体・看護職の配置有無別自由記載の回答率

種別	施設数	全回答数	自由記載数	記載率%
公立看護職あり	7	268	78	29.1%
公立看護職なし	11	677	170	25.1%
私立看護職あり	9	989	233	23.6%
私立看護職なし	9	555	121	21.8%
不明	-	15	4	26.7%
	36	2504	606	24.2%

表 2. 児年齢別自由記載の回答率

児年齢	全数	自由記載数	記載率%
0歳	26	10	38.5%
1歳	210	54	25.7%
2歳	304	79	26.0%
3歳	421	105	24.9%
4歳	541	129	23.8%
5歳	581	119	20.5%
6歳	414	110	26.6%
不明	7	0	0.0%
	2,504	606	24.2%

2. 分類項目別集計

はじめに、内容の事実関係について確認しておきたい。自由記載意見の中には保護者が観た保育所内の実態についての記載があるが、われわれはその事実関係を確認していないので、例えば「コップを共用しているようだ」などをそのまま取り上げた。

自由記載の内容を文献 5) において作成した項目に従って分類を行なった。表 3 に示すように内容別に 1. 病気・けがの時の対応、2. 安全・衛生、3. 医療職との連携、4. 健康管理、5. 健康増進、6. 食事、7. 生活、8. その他の 8 項目に分類し、さらに中分類、小分類に整理した。意見総数は 941 件であった。

(1) 病気・けがの時の対応

意見数は最も多く 244 件であった。このうち最も多い意見は、病児保育に関すること 99 件であった。しかし、単に病児保育を希望するだけでなく、今ある病児保育が利用しづらいため、また慣れた場所や保育士を希望することから「保育所内に別室（保健室）をつくってほしい」という意見が半数をしめた。また「登園基準を緩やかにして欲しい」「体調が悪くなくても預っていて欲しい」など、子どもが病気になっても、仕事を休みにくいこと、子どもをもちながら働くことの悩みが表れていた。しかし、一方で「親が休めるようにすべき」など病気の時に子どもを預けることへの抵抗、疑問の意見も 4 件あった。

投薬については 30 件あり、服薬希望 19 件、現在服薬してもらっている上での不満 9 件、しない方がよい

表3 年齢別・項目別集計

中分類	小分類	(年齢)	0～2	3～4	5～6	合計
病気の対応 224件	病児保育 99件	病児保育の希望	12	22	12	46
		病時の対応希望(別室・保健室)	8	22	16	46
		病児保育を増やしてほしい、利用しやすくしてほしい	2	0	1	3
		病児保育より親が休めるようにすべき	1	3	0	4
	投薬 30件	服薬してほしい、服薬は認めてよいと思う	6	9	4	19
		服薬してくれるが、不満あり	1	3	5	9
		服薬はしないほうがよい		0	2	2
	体調不良時の対応 41件	体調不良時、病気欠席後の対応、しっかりみてほしい、室内で安静にすごしてほしい	1	5	4	10
		登園基準を緩やかにしてほしい(多少の熱、元気で様子がみれるなら、親の判断で)	0	1	6	7
		保育士の判断、対応への疑問(気づかない、勝手な治療、個人の対応の違い)		3	9	12
		医療機関に連れて行って欲しい(体調不良、怪我、感染症時)	2	3	0	5
		少し過敏になりすぎ、報告はあってよいが謝罪は不要、心苦しい	3	0	0	3
		アトピーに対する対応について	1	1	2	4
		連絡の内容、方法について(どんなことも詳細に、口頭と文書で)	5	1	5	11
	保護者への連絡 54件	体調が悪くなくても、様子をみて帰り時間までみてほしい、状況に応じて柔軟な対応を、急なお迎えは困難である	6	4	6	16
		お迎えの連絡は少し様子をみてからにしてほしい(熱だけでなく、総合的にみてほしい)	0	3	3	6
		お迎えの連絡基準について(基準がはっきりしない、迎えにいくと元氣、熱もない)	0	1	3	4
		よく見てくれる、助かっている、連絡・処置対応もよい、感謝	1	9	7	17
安全衛生 182件	事故対策 21件	事故・怪我の予防対策(しっかりみてほしい)	2	3	5	10
		事故・けが時の対応・説明、園の責任について	2	5	4	11
	感染症対策 76件	感染症対策への要望(予防、基準、伝播防止、連絡体制、対応など)	14	13	16	43
		予防接種に関する要望(園で接種してほしい、情報の周知)	2	4	0	6
		予防接種への疑問、免疫には病氣した方がよい	1	4	1	6
		現状の気がかり、(虫さされ、常に風邪をひく、うつされる、耳鼻科疾患あり、怪我が多い)	6	1	2	9
		とびひの予防、対応について、シラミ対策について	0	0	7	7
		集団生活なので、感染の流行は仕方ないと思う	1	1	1	3
		他児への感染や重症化を避けるためにも病氣時は家庭でみるべき	0	1	1	2
	施設環境 79件	温度調節管理、換気、湿度、空調、騒音に気を付けて欲しい	6	4	2	12
		トイレの衛生管理	0	4	4	8
		室内の清掃、消毒、おもちゃ・布団の消毒、管理	6	8	10	24
		コップ・タオルなどの共用と衛生管理	3	4	4	11
		飲料水への不安、浄水器・麦茶の準備	0	1	1	2
		設備の改善要望(シャワー、下駄箱、トイレ、手洗い場の増設)	2	3	3	8
		施設への不満(古い、狭い、安全性、部屋が少ない、乳児室、寝室を分けて欲しい)	3	3	8	14
	その他6件	清潔で衛生面に気を付けているが、神経質すぎでは、家庭とのギャップを感じる	0	0	1	1
		清潔でよい・衛生管理がよい、感染症発生の連絡がある	2	0	3	5
医療連携 69件	医療職 62件	医師・看護職・保健職の配置希望	7	12	13	32
		看護職がいてよい助かる、安心、勉強になる	2	6	8	16
		看護職の役割と活用について(乳児以外にも必要、接触機会がすくない、相談体制を)	1	1	3	5
		嘱託医への要望(登園許可、選任の方法、講演)	5	4	0	9
	連携 7件	園と病院が併設されているので、安心、園医との連携がよい	1	3	0	4
		保育園と小児科が連携して常に受診・健康管理ができるとよい	0	1	2	3

健康管理 57件	健康管理 27件	保育園の健康管理への要望(厳しくする、統一した基準、検温、親の考えに合わせたもの、もっと気をつけてほしい、大切など)	5	9	2	16
		子どもの健康管理は基本的には保護者が気をつけること、園にまかせることではない、気づいた点は親にいてほしい、園と協力して行っていきたい	2	5	4	11
	健診 10件	健康診断への要望、不満(報告、保育士がわの結果の熟知、医師の対応、フッ素希望、親の質問受付など)	2	2	6	10
	その他	マニュアルだけでなく、保育士の勘や経験が大切 毎月の健診、種々の検査をしてもらってよい、健康管理、対応がよい、感謝、安心	11	2	6	19
健康増進 41件	健康増進 37件	薄着・裸足への疑問	6	4	9	19
		健康増進への要望(運動させてほしい、健康教育、疾病予防希望)	1	2	6	9
		健康増進策への共感(裸足、乾布摩擦、体力づくり)	1	5	3	9
	情報提供 4件	健康便りが役にたっている	1	1	1	3
		病気・健康に関する情報提供してほしい	1	0	0	1
食事 34件	食事	食品衛生、安全、食材、献立、栄養面への要望	3	3	5	11
		主食持参への疑問	1		2	3
		個別対応を(量、時間、好き嫌い、食育)	2	2	1	5
		食欲の有無、食べ具合、残した理由を教えてください	0	1	1	2
		給食がよくない、食卓は別にしてほしい		1	1	2
		保育士の与え方の問題(噛み砕いて与えてる、落としたものを食べさせる、食後口をふいてほしい、正座)	0	2	2	4
		食事管理がよい、充実している、嫌いなものもたべられるようになった	0	4	0	4
		おやつへの要望(手作りで、食事の足しになるもの、時間、軽いもの、がいい)	0	0	3	3
生活 85件	睡眠 4件	午睡について(年長児への疑問)	1	0	3	4
	世話 20件	鼻水への対応、ふいてほしい、かむのをてつだってほしい	0	4	1	5
		衣服への要望(気温にあわせて調整、補充の連絡、体操着)	3	8	4	15
	生活指導 61件	うがい、手洗い指導	2	10	5	17
		爪きり指導		2		2
		排泄の世話、監督、排泄後の手洗い、スリッパ	5	4	7	16
		手洗い、排泄などしっかりみてくれていて安心	0	2	1	3
		歯ブラシ管理について(ケースにしてほしい、交換)		1	1	2
		歯磨への要望(食後歯磨きを、歯ブラシ交換、歯ブラシ管理について)	3	11	2	16
		挨拶や日常のしつけ、集団で学ぶことなどの指導希望	2	2	1	5
その他 249件	保育士 52件	保育士の数、人材、構成への要望	4	6	4	14
		保育士への技量、対応への疑問、不満、要望。	6	14	18	38
	連絡 24件	連絡方法、口頭、ノートなどへの要望、活用について	5	10	9	24
	行政 29件	行政への要望	6	11	12	29
	相談・信頼 関係 43件	保育士との信頼関係、コミュニケーションについて	5	6	7	18
		相談できる場、時間、機関への希望	1	2	2	5
		心のケアもみてほしい、心の健康支援、心理専門家配置希望	1	4	4	9
		個別対応、注意してみしてほしい、変化に気づいて欲しい	2	7	2	11
	情報3件	地域の医療情報やその他情報提供の希望	2	0	1	3
	その他 98件	親のあり方、保育所との関係	3	5	1	9
		保育方針について(様々な専門家の指導を)	3	2	5	10
		保育園への不満(ダメダメ教育、怪我が多い、親の味方でない、園の中がわからない)	1	3	1	5
		保育士、園に対しての感謝のこぼれ、満足	19	19	16	54
		とくになし、安心、任せている	4	8	6	18
		歯ブラシしていないが、我慢できる		1		1
もっとたくさんの方が保育園にはいれたらよい			1		1	
	合 計	229	363	349	941	

という反対意見2件であった。投棄の希望は多く、希望に添っている保育所もあるが、実施上問題点があることは否めないようである。

(2) 安全・衛生管理

事故予防、環境衛生管理、感染症対策に関するものは182件あった。子どもの集団生活の場においては避けられない感染症の問題が多く、「感染症は仕方がない」という意見から、感染症発生に対する連絡・対応に関すること、風邪をひいている子を預ることへの疑問など幅広く意見が書かれていた。また、仕事が休みにくいことを理由として「保育所で予防接種をしてほしい」との意見も5件あった。

施設環境、衛生管理については「よい」という意見は5件のみで、施設内の清掃、おもちゃなどの消毒、施設設備の改善、そしてタオルやコップを共用していることへ改善要望などが79件あり、環境や衛生管理に関して問題があり、改善が必要な施設があることがうかがわれた。

(3) 医療職との連携

医療関係者との連携・配置に関する意見では、医療職配置の希望が多く32件あったが、その理由として「投棄してもらえる」「病児もみてもらえる」というように、保護者の誤った認識もあるようであった。

(4) 健康管理

健康管理については57件あったが、「健康管理がよい」といった肯定的意見が19件をしめた他「保育所に任せるのではなく、保護者が気を付けるべき」「保護者と保育所が協力していきたい」といった保護者側の役割についての積極的な意見もあげられた。

(5) 健康増進

健康増進に関することについては保育所の薄着・裸足教育に共感する意見(9件)よりも、「薄着・裸足はやめて欲しい」という意見が19件と上回った。厳しい体力づくりより、子どもを大事にみてほしいという傾向がうかがわれ、現在の保育所の方針について、親の意向を考慮した検討が必要かもしれない。

(6) 食事

食事に関しては、安全・衛生に気を付けて欲しい、食材、栄養に関することなどの要望が11件あった。最近の食品に関する事件に関連して、保護者も気にかけているようであった。また、主食を持参していることへの不満もあり、安全な完全給食供給体制が求められた。

(7) 生活

生活面では日常のしつけに関する要望が多く、とくに歯磨き指導は16件、手洗い・うがいの指導が17件

と要望が多かった。また薄着に対する抵抗とあわせて、気温の変化に応じた衣服の調整を求めるものが13件と多かった。

(8) その他

その他に分類した意見では保育士に対する意見が非常に多く52件であった。人数や構成に関する意見から個人的対応に関する要望まで幅広くあった。また行政に対する意見も多く見られ29件であった。保護者の労働条件に対する意見もふくめ、社会全体への改善が求められていた。

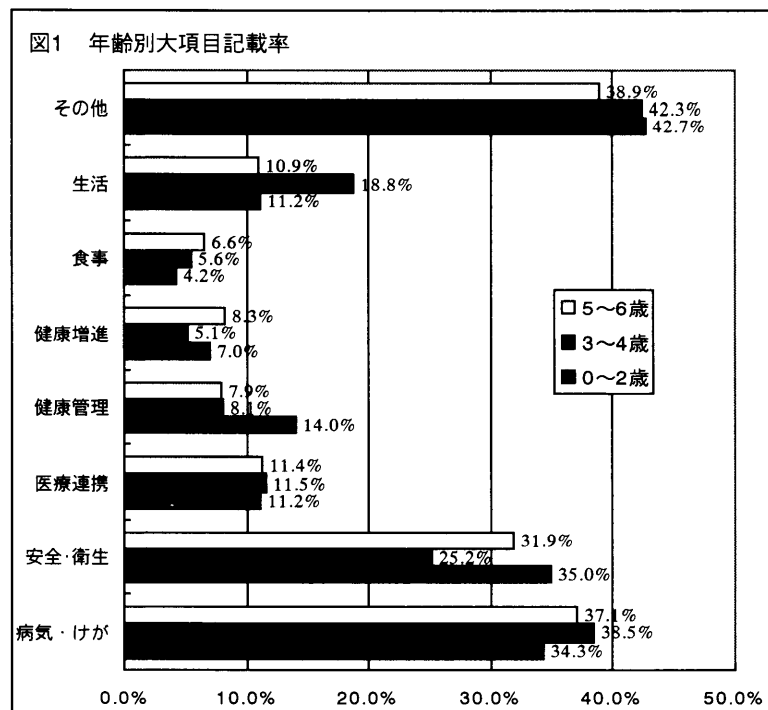
一方で精神面への援助、信頼関係に関すること等、現代の核家族社会の問題を反映する内容もみられ、保育所に期待される子育て支援の役割は大きいと考えられた。

3. 年齢層別検討

子どもの年齢により0～2歳、3～4歳、5～6歳の3群に分け、項目別記載率の傾向をみた。図1に大項目別の記載率を示したように「病気・けがの時の対応について」は、児の年齢を問わず高い頻度で記載されている。他の項目も全年齢に渡っているが、特徴をあげれば、0～2歳では、「安全・衛生」「健康管理」に関して他群に比較して多くなっており、低年齢児においては、基本的な保健活動を確実に実行して欲しいという希望の表れであるといえる。3～4歳児では、「生活」について他群に比較して多くなっている。3～4歳では、生活の中で子ども自身が衛生的な行動をとれるよう指導を希望するとともに、まだ不完全な自立の状態を援助して欲しいという要望が表れていると考えられる。これに関連して、「その他」に分類された内容では、保育士についての意見が最も多いことは前項で述べたとおりである。

4. 自由意見の種別

自由記述には、問題点の指摘や要望以外に、肯定的意見や感謝も含まれる。このような種類別にて941件を分類すると。要望543件、問題点・疑問182件、肯定・お礼169件、否定23件、その他一般論など24件となった。保育所に対して肯定的な意見も多いものの、保育所に求めるものは多く、それどこまで答えるのか、保護者側の認識の確認も必要であり、保育所と保護者と行政を含めた地域社会との相互理解と連携が必要なことが明らかになった。



5. 保育所別検討

保育所別に保護者の意見を見ていくと、全体集計では分からないそれぞれの施設の特徴や問題点が見い出される。表4に設置主体別、看護職の配置有無別に、意見の分布を示したが、どの群でも意見は多岐な領域にわたっている。以下、保育所群でみられた主な特徴を示すが、病児保育・投薬については、全体を通して要望が多かったので、ここではこれ以外の問題に焦点を当てる。個別の保育所を識別するアルファベットは、それぞれ A：公立看護職配置あり、B：公立看護職配置なし、C：私立看護職配置あり、D：私立看護職配置なしの保育所であることを表している。

表4. 設置主体・看護職の配置有無別項目数

	看護職の配置	病気・けが	安全・衛生	医療職と連携	健康管理	健康増進	食事	生活	その他
公立	有	30	10	13	2	5	3	8	29
	無	55	45	11	13	12	11	22	63
私立	有	86	47	27	27	10	9	14	88
	無	37	37	14	13	5	9	16	31
不明		1	0	0	0	0	1	1	2
計		209	139	65	55	32	33	61	213

(1) 同一保育所内で分かれている意見

1) 感染予防・施設管理について

B1 園では「O157 対策で厳しすぎると思う程、管理が行き届いている」とする一方、「何人か同じティッシュで鼻ふき」「うがい用コップ個人にして欲しい」という実態がみられ、理論があっても実践がともなっていないのか、保育所側の考える衛生管理が保護者の感覚とズレがあるように思われた。

D1 園では、「ベテラン保育士が多く、相談しやすく、食事の管理もよい」という肯定的意見の反面、「コップの共用」「タオルの共用」という衛生管理に問題があった。

D2 園では、「衛生管理が徹底して安心」「狂牛病について文書あり」「O157 以後衛生管理が改善された」との肯定的意見がみられたが、このような記述がある反面「清掃が行き届いていない」「歯磨きセットがトイレの床に落ちていることがある」、トイレの使用について「先生が見ていないと、手を洗っていない」「トイレ用スリッパを履かず、裸足」という指摘があった。文書の配付やシステムは大切であるが、実践を確めることが必須である。

2) 保育所（保育士）へ要望

B2 園は肯定意見が少なく、「寝返りをはじめるとパンツにされるが、いつも濡れていて風邪をひきっぱなし」「風邪ひかせないでほしい」「風邪ひきは登園させないで欲しい」「シラミ発生時パウダーは保育所で用意して欲しい」など主に感染予防に関する

不満が多くあがったが、「子どもの健康は園任せにせず親の責任でみるべき、もっと親への呼び掛けをしてもよい」と他の保護者に対する指導を求める意見もあった。

D3 園では、「先生と信頼関係がある」との一方、「若い先生が多い、雰囲気が悪い」という意見もあった。「寒い日に外に出す。水遊びをする」などから、きちんと世話をしてくれないという印象があり、「寒暖にあわせた衣服の調節をして欲しい」との要望がある。

B3 園では、「お迎え時、保育士が子どものことを伝えてくれるので安心」という保護者がいる一方、「担任と会えないので話が聞けない」との不満があがった。朝やお迎えの時間に担任がいるか否かと共に、送迎を保護者以外に頼んでいるなど、保護者の勤務や家庭の状況によって、連絡方法にきめ細かな配慮が必要である。

(2) 他の園と比較する意見

B4 園は「看護職を勤務させて欲しい。同じ公立なのに看護職がいないのは不公平」が3件となっており、「保健便りが少ない」「健診結果の報告が異常なしのみで、何を調べたのかよく分らない」など問題点が指摘された。

C1 園は肯定的意見が少なく、保育士の質についての記述が多かった。「公立に比べてレベルに差がある」「子どもの異変に気付かなかった」「相談してむだだった」「保育士が若く独身が多い」という指摘があり、人材の登用と育成の課題といえる。

D2 園では、「清掃が行き届いていない」との記述が複数みられた。「市は掃除担当の用務員を雇うよう指導してもらいたい」との意見があり、「他市はよかった」と比較して不満を表明していた。

(3) 各保育所における看護職の活動

A1 園は、看護職が配置されているにもかかわらず、その存在が十分に知られておらず、看護職が保育所全体の保健活動に関わっていないことが伺われた。「腕が抜けた時、勝手な治療をされた」「病気について、分らないのに指導するのは止めて欲しい」などは、看護職がこのような場面に関わっていないものと考えられた。

C2 園は「看護職は乳児クラスのみ対応しているが、園全体を見て欲しい」「看護婦さんに相談する機会と時間がない」など、看護職に対する期待が大きい、「担任をはじめ中堅・ベテランが細かいところまで子どもの様子をみてくれるので安心」という意見もあり、看護職のみならず園全体で園児を見守る体制が大切であることも指摘されている。

看護職の配置のある A 群および C 群の保育所で

は、「看護婦さんがいて安心」「身体だけでなく精神面も助かる」「保健便りが役立つ」など肯定的意見や感謝の言葉が多かった。これらの施設において保健面の管理が行き届いている事を示す記述は、「薬の投与は日に2回にしてもらうよう、医師に相談するように言われた」「毎日検温は大変だが、病気を知る第一歩で良いことだと思う」「当初は厳しいと感じたが、集団生活においては必要と思うようになった」などである。「看護職は絶対に必要」という意見は A 群の各園、C 群の多くでみられた。

(4) 園医への期待

一般に保護者への情報不足、園医についての不信任感があり、例えば、A2 園「園医が分らないので不安」「たまたま健康診断の場をみたが、保育士からの情報を無視していた」、A1 園「園医が内科で高齢、何年間も同じ」、B6 園・B7 園「小児科医にして欲しい」などである。

B5 園では「園医に薬について分る教室を開いて欲しい」、B6 園・B7 園は「園医に常駐してほしい」、C3 園では「障害児」「アトピー」への対応の要望が出された。

C3 園では投薬は医師の依頼書があれば可能であるが、医師から「薬の出ている間は保育園を休ませて」と指示されたケースがあり、登園基準について医療側との連携が必要である。

(5) 健康増進

A~D 群の多くの園で共通にあげられた疑問は「裸足保育・薄着」に対してであり、薄着はほとんどの園で励行されているようであった。しかし、多くの保護者が薄着は風邪の原因であると捉えていた。

C4 園では歯磨き指導の要望が3~6 歳児の保護者から5 件あり、なぜ実施しないかについて園の方針を保護者へ説明する必要がある。

(6) 広い視点—行政への要望

B8 園では「すべてを保育所や保育士に期待すべきでない」という意見がだされた。「育児相談や親同士のコミュニケーションの場がほしい」「手洗い・うがいなどは保育士の負担を考え、看護職・栄養士など他職種からも指導して欲しい」など保育所・保育士のみではなく広い支援体制を求めている。

C5 園では、お迎え・投薬・とびひへの対応が「園によってまちまちなので統一して欲しい」「病児保育より親が休める体制を」「予防接種が受けられるよう有給休暇を」など、市や国レベルへ問題意識を表明している。

D4 園は「感染症は早めに連絡を」「衛生管理」などについて行政の指導を求めている。

IV 考 察

保育所の保健活動に関する保護者の認識を把握し、今後の保健活動の向上に資することを目的に、全国 36 か所の保育所においてアンケート調査を行い、このうち自由記載意見について分析を行った。アンケートの最後に設けた問いに対し、約 1/4 の保護者が意見をよせており、任意の回答ではあるが、あえて文書につづられた事柄は問題が切実であるものと考えられる。

最も多い要望は、病気やけがの時への対応であった。保育所に子どもを預けて仕事を続ける親にとって、子どもの病気やけがが一番の悩みであることは、先行調査⁶⁾で示されている通りである。これを受け行政では現在、新エンゼルプランとして「乳幼児健康支援一時預かり事業」が推進され、平成 15 年度は 425 市町村での実施が目指されている。平成 12 年度の実績値は 132 か所であったので、支援体制は着実に進んでいるといえよう。しかし、保護者の望む支援とは、遠く離れた親子ともに馴染みのない施設ではなく、現在預けている保育所において、病時にもみてもらえることであった。医療職の配置・投薬の要望にも共通する問題であるが、利用者の意見を尊重しどこまで要望を満たせるかは、現行の制度の中で保育所の機能・人員をいかに活用していくかにかかっているといえよう。

保育士についての意見も多く寄せられた。もっとよく子どもをみて欲しいという個別対応の要望といえる。その背景には、保育所で風邪などの感染症をうつされるという認識があり、保育士の感染予防策についての不満の表れであると考えられた。すなわち、保育士の保健面の専門性の向上が求められているといえる。この件に関しては、保育士養成課程においても十分に検討する必要がある、今後の課題といえよう。

また、排せつや手洗い介助の要望があり、保育士の配置数が現行で十分と言えるのか、実際の状況をみたと、感染症予防の観点からの検討が必要であろう。

感染症予防に関する要望は高く、清掃、タオル・コップの共用など衛生管理について問題点があげられた。子ども同士や保育士からの伝播の可能性を最小限に押さえるための対策が必要である。春日らが行った保育所の微生物汚染状況調査⁷⁾では、保育所のどの場所に汚染が多いか明らかにされており、実地の検証が大切なことを示している。

以上、保護者の意見から垣間見た保育所の保健実態は、今後の保育所保健を考える上で、様々な示唆を与えてくれた。保育所保育指針の第 1 章総則に「保育の目標は、(中略)子どもの様々な欲求を満たし、生命の保持および情緒の安定をはかること」「健康安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培うこと」とあるが、高野はこれを「保育

の基本は子どもの生命を守ることであり、さらに健康を保持増進することである」⁸⁾と読み取っている。子どもの安全と健康を第一に考え、保護者が安心して預けられる保育所の整備を目指し、現行の制度のなかで最大限の努力をしていくとともに、衛生管理マニュアルの導入や現行の人員配置基準の再考などは必須であるといえよう。

V 結 論

1. 最も多い要望は、病気やけがの時への対応であり、看護職・嘱託医への期待は大きかった。看護職の存在は保護者に安心感を与えていたが、同時に、保育所保健活動における保育士の役割の重要性が確認され、その専門性の向上と人員配置の検討が望まれる。
2. 保育所における感染症予防・環境衛生管理については、看護職配置の有無にかかわらず各園で徹底されるよう、現場に即した管理マニュアルの導入・医療との連携・行政指導が望まれる。
3. 保育所に対する保護者の要望は多岐にわたった。これらを解決に向けるためには、保育所の方針と保護者の立場の相互理解を深め、これを支える行政や地域社会との連携が必須である。

本研究は平成 13 年度厚生科学研究費補助金（主任研究者 高野 陽）によって行われた。

文 献

- 1) 高野 陽, 他: 保育所における保健・衛生面の対応に関する調査研究. 平成 12 年度厚生科学研究 (子ども家庭総合研究事業) 報告書. 平成 13 年 3 月; 574-616.
- 2) 高野 陽, 他. 保育所における保健・衛生面の対応に関する調査研究. 平成 13 年度厚生科学研究 (子ども家庭総合研究事業) 報告書. 平成 14 年 3 月; 367-419.
- 3) 厚生省児童家庭局編. 保育所保育指針. 日本保育協会. 1999. 11. 5.
- 4) 齋藤幸子, 高野 陽. 保育所の保健活動に関する保護者の意識調査—子どもの年齢別集計結果分析—. 子ども家庭総合研究所紀要 38 集. 2001. 2; 39-243
- 5) 齋藤幸子, 高野 陽. 他: 保育所における子どもの健康・安全管理に関する親の意見. 子ども家庭総合研究所紀要 36 集. 1999. ; 183-187
- 6) 日本総合愛育研究所. 病時デイケア・パイロット事業調査研究最終報告. 平成 5 年度.
- 7) 春日文子, 他. 保育所の清潔と感染防護. 保育と保健. 2003. 9(1). ; 14-21
- 8) 高野 陽. 保育士養成と小児保健. 小児保健研究. 2002. 9 61(5) ; 649-655